

〔研究論文〕

教職大学院における「特別活動の理論と実践」の授業提案 —実践的指導力を育成する内容構成を通して—

The Proposal Class about The Theory and Practice of Special Activities at Graduate School for Teachers
- Focusing on the Lesson Plan to Promote Teaching Skills -

脇 田 哲 郎

Tetsuro WAKITA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻

本研究は「特別活動の理論と実践」『科目コード：D2041800・単位：2単位・対象：教育実践力開発コース1年・必修・講義演習』（以下、本科目）の授業をもとに、教職大学院における本科目の効果的な授業のあり方を提案するものである。授業では、学級活動(1)の話し合い活動（以下、学級会）の実践的指導力の育成を目指して、学級会の授業を「見る」、学級会の授業を「つくる」、学級会の授業を「実践する」という活動で構成し、各活動における院生のアンケートや指導案の内容、提出物の内容から取組の効果を検証した。具体的には、見る活動では、A 小学校と B 小学校での特別活動研究大会における学級会の授業を参観し、つくる活動では、学級会マネジメントシートを活用して学級会の授業をつくり、実践する活動では、つくる活動で作成した指導案に照らして学級会の模擬授業を行った。院生は、本授業を通して学級会の授業づくりの基礎が学べたと述べており、本科目の授業の進め方の一事例を提案できた。

キーワード：教職大学院 特別活動の理論と実践の授業 実践的指導力 内容構成

1 研究の目的と方法

教職大学院の学部卒業院生に求められる資質・能力からの目的

本研究は、学士課程を終え、これから教職に就くことを目指している教育実践力開発コース1年生に実施した本科目の授業展開について述べたものである。

本学の教職大学院のディプロマ・ポリシーは、1)教員としての高度で専門的な知識・技能、2)学校現場の課題に対応できる教員としての実践的指導力の育成である。そのために、「体験の経験化」を目指す教育課程を編成・実施して、高度専門職業人としての教員に求められる資質・能力を育成している。

また、中央教育審議会では「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策につい

て」（2012，答申）では、これからの教員に求められる資質能力について、i)教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力としての(使命感や責任感、教育的愛情)、ii)専門職としての高度な知識・技能としての、①教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)、②新たな学びを展開できる実践的指導力としての(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)、③教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力、(iii)総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)であると整理している。

さらに、現場の校長として勤務した経験のある報告者としては、今後の学校現場における若年教員の指導者層である 40 代教員の減少に鑑み（図 1 参照）初任者研修の内容をある程度クリアできる教員であり、学校現場で少ない先輩の手を煩わせることなく、自立できる教員としての資質・能力を身につけた教員の育成を望むものである。

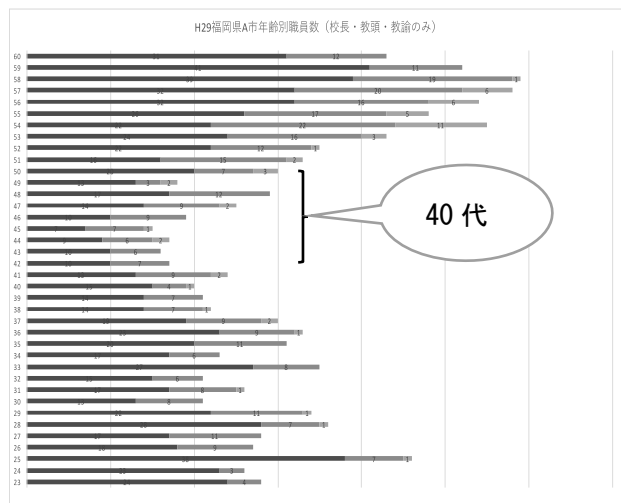


図 1 平成 29 年度福岡県 A 市年齢別職員数

「特別活動の理論と実践」のコアカリキュラム

本科目のコアカリキュラムは表 1 に示す通りである。このカリキュラムは、教員養成段階でのコアカリキュラムであるが、本学院生に求められる資質・能力に照らして考えると、特別活動の意義、目標及び内容では「学級活動・ホームルーム活動の特質の理解」と、特別活動の指導法の「合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。」という内容の充実に留意する必要がある。

特に、本科目では「学級会」と呼ばれることの多い、学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の内容で、児童生徒が、学級や学校生活の向上に関する諸問題を解決する場面で「話し合い活動」の授業づくりに向けた実践的指導力の育成を目指した。学級会は、特別活動の中核となる活動であり、学校現場ではその教育的な意義は理解されているものの、指導が難しいとされている。（後藤，2016）は、学級会を指導する上での困難を「活動までの時間が取れない」、「指導方法がわからない」、「具体的な進め方がわからない」、「時間内に話し合いが終わらない」ことを主な理由としてあげている。また、（日本特別活動学会，2014）では、学級活動の指導上の問題点を「時間不足で十分に課題を深めることができない」、「教科の時間が重

表 1 特別活動の理論と実践のコアカリキュラム

1 全体目標

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

(1) 特別活動の意義、目標及び内容

○一般目標

特別活動の意義、目標及び内容を理解する。

○到達目標

- 1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
- 2) 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。
- 3) 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。
- 4) 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。

(2) 特別活動の指導法

○一般目標

特別活動の指導の在り方を理解する。

○到達目標

- 1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。
- 2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。
- 3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
- 4) 特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方を理解している。

要と考え、軽視しがち」、「子供の発達に応じた課題の設定ができない」、「教科書がなく指導内容が明確でなくやりにくい」ことと示している。

このようなことから、学級の諸問題を学級を構成するメンバー一人一人が主体的に発見し、発見した問題を学級会で話し合っ解決するための計画を立て、学級会で決まったことを学級成員と協力して実践する学級会の指導ができる教員を育成するためには「学級会の授業の実際を見る」、「学

級会の授業をつくる」,「学級会の授業を実施する」授業の展開が求められると考えた。

学級会の授業を見る・つくる・実施するを位置付けたシラバス

表2 シラバス

回	内 容
1	オリエンテーション・特別活動の概観 ・本授業の目標、概要、学習方法を理解する。 ・特別活動の目標、特別活動の内容、特別活動の特質、特別活動の教育的意義について理解する。【講義形式】
2	学級活動(1)の授業研究① ・筑後地区小学校特別活動研究会（大川市立田口小学校）で公開される学級活動(1)の指導案についての事前研究を行い、授業参観の視点を明確にする。【講義形式】
3・4	学級活動(1)の授業研究① ・筑後地区特別活動研究大会（大川市立田口小学校）で公開される学級活動(1)の授業を参観し授業の進め方を理解する。【授業参観・レポート作成】 ・授業参観後の研究発表や講演から、学級活動(1)を中心に進める学級経営の充実について理解する。【講義形式】
5	学級活動(1)の授業分析① ・各自が作成した学級活動(1)の授業分析を基に、学級活動(1)の授業づくりについて理解する。 【レポート発表・協議形式】 学級活動(1)の授業研究② ・福岡県小学校特別活動研究会（糸島市立東風小学校）で公開される学級活動(1)の指導案についての事前研究を行い、授業参観の視点を明確にする。【講義・協議形式】
6・7	学級活動(1)の授業研究② ・福岡県小学校特別活動研究大会（糸島市立東風小学校）で公開される学級活動(1)の授業を参観し授業の進め方を理解する。【授業参観・レポート作成】 ・授業参観後の研究協議会から、学級活動(1)を中心に進める学級経営の充実について理解する。【講義形式】
8	学級活動(1)の授業分析② ・各自が作成した学級活動(1)の授業分析を基に、学級活動(1)の授業づくりについて理解する。 【レポート発表・協議形式】
9	学級活動(1)「学級会」の授業づくり① ・学級会マネジメントシートを活用して「学級会」の事前の活動、本時の話し合い、事後の活動を個人で構想する。 【講義・作業形式】
10	学級活動(1)「学級会」の授業づくり② ・学級会マネジメントシートを活用して「学級会」の事前の活動、本時の話し合い、事後の活動をグループで構想する。【発表・協議形式】
11	学級活動(1)「学級会」の授業づくり① ・マネジメントシートに基づきながら「○学年○組 学級活動(1)指導案」を作成する。 ・学級会模擬授業に向けた準備【講義・作業形式】
12	学級活動(1)「学級会」の授業実践①<G1教室> ・指導案に基づいた「学級会」の模擬授業を公開し、公開された授業について授業分析を行う。A グループ 指導案の提出（課題提出②）【発表・協議形式】
13	学級活動(1)「学級会」の授業実践②<G1教室> ・指導案に基づいた「学級会」の模擬授業を公開し、公開された授業について授業分析を行う。B グループ 指導案の提出（課題提出②）【発表・協議形式】
14	学級活動(1)「学級会」の授業実践③<G1教室> ・指導案に基づいた「学級会」の模擬授業を公開し、公開された授業について授業分析を行う。C グループ 指導案の提出（課題提出②）【発表・協議形式】
15	特別活動の理論と実践のまとめ ・これまで学習の振り返り。

学級会の授業を見る、つくる、実施する活動を位置付けた本科目のシラバスを表2のように設定した。

本授業の目標は次の通りである。

望ましい集団活動を通して、自らよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度や、自己を生かす能力を養う特別活動の発達の段階に応じた指導のあり方についての理解を深めるとともに、学級生活の向上を目指した諸問題の解決に向け、話し合ったり話し合ったことを協力して実践したりする学級活動(1)を中心にした学級経営ができる教員の養成を目指す。（線は報告者付加）

この目標は、現行の学習指導要領（2008、文部科学省）の特別活動の目標をベースに設定した。特に、後半に学級会の実践的指導力の育成の部分を示した。

2 研究の内容

①期間 平成26年10月～2月

②対象 福岡教育大学教職実践専攻（教職大学院）教育実践力開発コース1年生18名

③研究成果の測定

- ・成果物の内容（学級会マネジメントシート・指導案・授業参観シート・模擬授業相互、自己評価票）
- ・授業観察（授業参観報告・模擬授業）
- ・授業後の院生の感想

学級会の実践的指導力を育成する方法

(1) 学級会を「見る」活動

学級会を「見る」活動は、2回の授業参観（10/28：筑後地区小学校特別活動研究大会 T 小学校・11/25：福岡県小学校特別活動研究大会 H 小学校）を位置付けた。シラバスの3、4回、6、7回

授業参観前には、事前に送付された指導案をもとに、学級担任の授業構想を分析する図2の「学級会マネジメントシート」を活用させた。学級会マネジメントシートには、①「学級の諸問題」、②「学級会を通して目指す子供の姿」、③「学級会を自主的、実践的な活動にするための教師の支援」、④「議題」、⑤「解決のための話し合い」、⑥「話し合いの工夫」、⑦「実践と振り返り」、⑧「次の課題への向かわせ方」について、送付されてきた指導案から、自分が参観する授業者である教師の意図を読み取らせた。シラバス2、5回

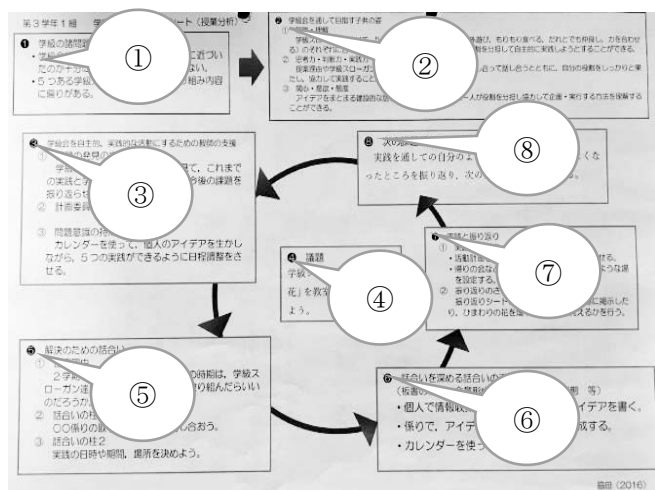


図2 学級会マネジメントシート

さらに、「① 学級の諸問題を解決する話合いが行われたか。」「②学級会で子供たちが集中した場面、その理由。」③「話合いで子供たちの集中が途切れた場面とその理由」の視点を与え、この視点から授業参観をさせた。（図3参照）



図3 学級会の授業参観の様子

授業参観には、表3に示すようにグループを編成させて参加させた。

授業参観の各グループでは「学級会発言記録用紙」「座席表型記録用紙」「写真、VTR 記録」の係を分担して学級会の授業記録を取り、授業分析を行うようにした。このような授業観察の結果、院生たちは次のように学級会を分析した。

授業分析については、授業参観の翌週の授業の中で全員で交流した。シラバス5、8回

表4は、1Gの授業分析の内容であるが、話合いの方法や板書、意見が衝突した時の教師の手だてを中心に分析をしていることが分かる。また、2Gは、議題選定の背景に触れ、学級会の手だて、話合い活動の価値にまで触れて分析をしている。（表4中下線部分）

表3 授業参観グループの編成

10/28 T小学校	11/25 H小学校
1年1組：1G（3人） 『もっと仲良し「100点満点集会」をしよう』 2年2組：2G（2人） 『全力「チャレンジ集会」をしよう』 3年1組：3G（3人） 『学級シンボル「ひまわりの花」を一杯に広げよう』 4年1組：4G（3人） 『4年生パワーアッププロジェクト「校内音楽発表会」をしよう』 5年2組：5G（3人） 『2学期はみんなで輝け「シャイニング集会」をしよう』 6年2組：6G（4人） 『1年生と関わりを深める「仲間集会」をしよう』	2年3組：1G（6人） 『2学期まとめの会をしよう』 4年3組：2G（6人） 『持久走記録会に向けて取り組みをしよう』 5年3組：3G（6人） 『2年生と思い出に残る最高の遊びの会をしよう』

表4 授業分析カードの内容（1G・2G）

<p>①学級の諸問題を解決する話合いが展開されたか ＜1G＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いの方法 自分の考えを表現しやすくする手だてとして「学級活動ノート」と「ネームカード（発表後に花丸マーク）」を使用していた。 ・板書 話合いの流れが児童に分かるように、今どの段階にあるのか、段階を終えるまでの目安の時間を模した時計、各案の良さを短く提示していた。 ・意見が衝突した時 衝突して今回は採用されなかった意見を、次回に回すという手だてを行っていた。その際はクラス全員の総意を取るようにしていた。 <p>＜2G＞</p> <p>本議題は「1学期にお楽しみ集会をしたけれど、みんなの力を合わせた集会にできなかった、1学期の反省を生かしながら新たなことにチャレンジする集会とは、どんな内容かを考えていきたい」という<u>子供の願いから選定された</u>。本時は、<u>ネームカードや友達の考えが分かるカードをもとにフリートーク</u>をしたり、話合いの過程が分かる<u>板書の工夫</u>をしたりする「見える化」によって、話合いの観点や学級スローガンを意識した取り組みがなされていた。・・・話合い活動を通しては、<u>2点の価値が見い出すことができる</u>と考える。</p> <p>1 点目は、集会やプログラムの内容の工夫を通して、子供たち一人一人が力を出し合い、みんなが楽しめる集会を実践することによって「<u>励ましあって、力を合わせよう</u>」という2学期の目標を強く意識することができた。</p> <p>2 点目は、自分たちで集会を計画し、実践することで主体性や協調性、実効性を高めていくことにつながり、<u>より良い学級生活づくりを目指していくことができる</u>。</p>
--

(2) 学級会をつくる活動

シラバスの9, 10, 11回目は、学級会をつくる活動とは、学級会の模擬授業に向けた指導案をつくる活動である。指導案の作成は、まず、院生一人一人が、小学校か中学校の学年を想定して作成した。作成には、学級会の授業を学級会前の活動、学級会本時、学級会後の活動を一連の活動として全体を俯瞰しながら授業構想ができるように「学級会マネジメントシート」を活用して作らせた。

(図4参照)

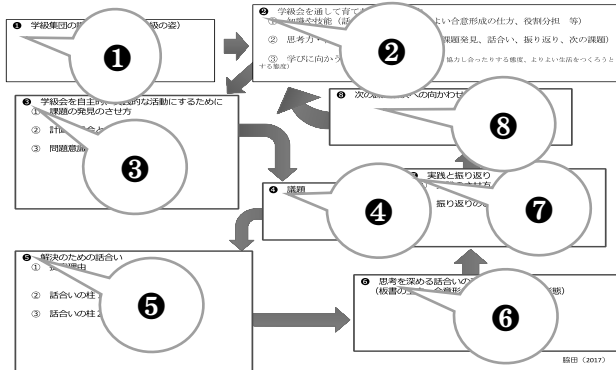


図4 学級会マネジメントシート

学級会マネジメントシートには、以下の内容について記録させるようにした。

①学級の諸問題

現在の学級の集団がどのような状態であるのかを捉えるとともに、その状態をどのような状態にまで高めたいのかを記す。

②目指す児童生徒像

- a どのような話し合いの進め方や合意形成の仕方、役割分担の仕方ができればいいのかを記す。
- b どのような生活上の課題発見や話し合い、振り返り、次の課題への気づきがあればいいのかを記す。
- c どのような「助け合ったり協力しあったりする態度」や「より良い生活をつくろうとする態度」を育てるのかを記す。

③学級会の事前の活動

a 課題の発見のさせ方

どのように発見させるのかを記す。

b 計画委員会との打ち合わせ

計画委員会と打ち合わせる内容を明記する。

c 問題意識の持たせ方

学級全員にどのようにして問題意識を持たせるのかを記す。

④議題

子供達の生活問題を解決するために、何を話し合えばいいのかが明確になるような議題を表記する。

⑤解決のための話し合い（学級会）

a 提案理由

学級の問題は何なのか。そのために何を解決しなければならないのか。そのことによって学級はどうなるのかを記す。

b 話し合いの柱1

子供達が学級の諸問題を解決するために最初に話し合うこと。

c 話し合いの柱2

子供達が学級の諸問題を解決するために2つめに話し合うこと。

⑥話し合いの工夫

学級会の話し合いが、学級の生活問題を解決するための思考を深めながら行われるように、板書で考えたり、思考ツールを用いてグループの意見をまとめたりするなどの工夫を記す。

⑦実践と振り返り

a 実践のさせ方

話し合いで決まったことをどのように実践させるのかを記す。

b 振り返りのさせ方

実践の後の振り返りをいつさせるのか、どのようにさせるのかを記す。

⑧次の課題への向かわせ方

振り返り活動をもとに、次の課題解決にどのように取り組ませるのかを記す。

この①～⑧までのプロセスを意図的・計画的に指導できる教員に「学級会」に対する実践的指導力が育成されと考え、マネジメントシートを作成させた。その結果、表5に示すような学級会を院生一人一人が構想することができた。

表5 院生が構想した学級会

院生	議 題
1	楽しい学級づくり
2	クラス全員が仲良くなるために今日からできることを考えよう
3	文化祭に向けてクラスがまとまるレクをしよう
4	学級のボールの使い方をみんなで考えよう
5	1年1組の心を一つにしよう
6	学級の輪を広めよう
7	クラス全員で団結して大縄を成功させよう
8	みんながニコニコ遊べるようにしよう
9	2年2組「ボールのルールづくり」学級会をしよう
10	大縄跳び成功に向けて学級の連帯感を高めよう
11	全員で大縄跳びを成功するために大切なことを話し合おう
12	体育会に向けた練習計画を立てよう
13	クラスボールの使い方を決めよう
14	学級の団結を深めよう
15	一致団結できるクラスになるために日頃の生活を見直そう
16	学級のボールを全員で気持ちよく使おう
17	ボールの使い方を決めよう
18	休み時間にクラス全員が「笑える」ようにしよう

シラバスの11回にあるように、各自が作成した学級会マネジメントシートに基づいて指導案を作成させた。(図5)

第 学 年 組 学級活動(1)学習指導案 指導者 ○○○○

1 議題名

2 指導観

(1) 議題選定の理由

本議題が選定されるまでの経過を書く。

(2) 子どもの実態

児童生徒の自発的、自治的な活動の経験を書く。

(3) 本議題の指導

議題の発見から、計画委員会、学級会、学級会後の実践、振り返りの指導について書く。

3 学級会で育てたい資質・能力

本学級会で育成したい資質・能力を書く。

4 計画

学 習 活 動

事前の活動

学級会の事前の活動、本時学級会、学級会の事後の活動計画を書く。

本時の活動

事後の活動

5 思考を深める話し合いの工夫

学級会の話し合いにおける工夫点を書く。

6 本時のねらい

学級会で決めること。育てる態度について書く

7 準備

教 師 :

子 ども :

計画委員会 :

8 予想される本時の展開

議題名

提案理由

予想される本時の展開

指導上の留意点

計画委員会と打ち合わせによって、どのような議題名や提案理由、話し合い活動の展開になるのか予想される展開を書く。




図5 マネジメントシートに照らして作成する指導案

院生一人一人が、図5の様式で指導案を作成した。院生が作成した指導案は、指導案に表記しなければならない基本的な事項は押さえられていた。ただ、予想される本時の展開に書かれた、話し合いの内容が、具体的な行動目標が話し合いによって決定できるものではなく「学級について」「文化祭について」「取り組む姿勢について」「決まりづくり」などの抽象的な内容が多く見られた。このことについては修正を加えた。

(3) 学級会を実践する活動

シラバスの12, 13, 14回において、自分たちで作成した指導案に基づいて、3回の模擬授業を行った。(表6)

表6 模擬授業議題一覧

グループ	議 題	評価
Aグループ	<p>中学校1年1組 学級会議題</p> <p>『文化祭に向けてクラスがまとまり、楽しめるレクの内容を決めよう。』</p> 	<p>S=0人</p> <p>A=10人</p> <p>B=3人</p> <p>C=0人</p>
Bグループ	<p>中学校2年3組 学級会議題</p> <p>『一致団結して大縄を成功させるための改善策を決めよう。』</p> 	<p>S=0人</p> <p>A=7人</p> <p>B=5人</p> <p>C=0人</p>
Cグループ	<p>小学校2年2組 学級会議題</p> <p>『ニコニコ笑顔になれるクラスボールのルールを決めよう。』</p> 	<p>S=0人</p> <p>A=4人</p> <p>B=6人</p> <p>C=0人</p>

模擬授業の指導案は、3 つに分けたグループで、各人が作成した指導案の中からモデルとなる指導案を抽出し、グループ全員で修正を加えた。

報告者は、各グループの模擬授業が終了した時点で次のようなコメントを全員に伝え、学級会の授業評価を行った。（表 7）

表 7 報告者の A グループへの評価

学級会の学習過程（活動過程）は「学級の諸問題の発見と意識化」→「問題解決のために合意形成を図る話し合い」→「話し合ったことの実践」→「実践の振り返り」→「新たな問題への気付き」となります。

模擬授業では、問題の発見・意識化と合意形成を図る話し合いの段階にあたります。A グループは、問題の発見として「文化祭前のより良い人間関係の形成」としました。

文化祭を前に、今の学級の人間関係をより良いものにして、文化祭の発表を学級全員の心を一つにして成し遂げようということです。

この、問題設定は妥当だと考えます。現場で実践するときは、学級の子供たちにこのような取り組みを行うことの必要性を理解させておくことが肝要です。

また、計画委員以外の子供たちへの意識化を図るために、学級会の告知資料を作っていましたが無効だと思います。

話し合いの段階では、司会や副司会、黒板記録、ノート記録の各係は、自分の役割をよく果たしていたと思います。「全員発表」という目標を掲げていましたが、学級会は全ての教科で培った能力を発揮する場ですので、発言力を育成する場ではありません。したがって、全員の発言は求めなくてもいいです。提案理由と話し合いのめあてがありましたが、提案理由だけで十分だと思います。提案理由の中に子供たちの学級への問題や解決の方法、そのことによる学級の成長などを記します。

また、院生同士も相互に各グループの模擬授業に対して「S とても良い」「A 良い」「B やや課題あり」「C 課題あり」という観点で相互に評価させた。各グループに対する相互評価の中で「B やや課題あり」と評価した根拠は表 8 に示す通りである。

院生の相互評価は、お互いを厳しく評価している。このことは、これまでの授業参観や指導案作成などの活動を通して学級会の授業を見る目が育ってきているからだ考える。

表 8 各グループの学級会に B 評価をつけた根拠

<A グループ>

- 1 流れや、課題に対する意識の持たせ方が少しつまみにくいところがあった。板書のツールは工夫されていて面白かった。全員発表ということをしてしまうと発表ができない子にとってとてもつらいと思う。
- 2 一人一回発表できるように促すのは良いと思った。しかし、内容は決まったものを決めるまでに必要な情報が生徒側に伝わっていないために時間がかかっていたからこの評価にした。
- 3 レクリエーションの準備にかかる時間を前もって提示していなかったため、最初に行なっていた話し合いが無駄になっていたのではないかと感じた。

<B グループ>

- 1 柱 1 ではクラスの現状に向き合ったが、内容として生徒のやる気が落ちそうなものであった。「良いところを伸ばす」というのが学級会で大切と考える。柱 2 においては、トピックが二つあり、参加する生徒には難しかったと考える。
- 2 事前に学級会ノートに考えを書く段階からゴール像がわかりにくかった。欲張らず、今の課題をしっかりと考えさせ、実行させていけば自然と大縄以外の他のクラスの現状にも目が向いていくのではないかと考える。
- 3 柱 1 から柱 2 まで全体で考えることができたのは良かったが、出た意見に対しての学級全体での合意形成が無かった。（納得していない人もいるのでは？）最後の柱 3 の内容がイメージできなかった。
- 4 今から取り組むことを一応決めたもののそれぞれの具体については、全く話し合うことができなかったから。もう一回似た内容で話し合いをする必要がありそうだから。
- 5 特に、柱 2 の後の話し合いについては、困る部分があった。話し合いの流れはスムーズに流れているように見えたことは良かった。しかし、少し雰囲気の中で後半になっていくにつれて、静かに感じた。

<C グループ>

- 1 黒板の準備や板書には、工夫が見られた。しかし、話し合うこと①では、何について話し合えばいいのか明確ではなく、時間がかかってしまったのではないかと考える。
- 2 柱 1 や柱 2 でどのような発言が出ると予想していたが見えなかった。ゴール像が見えづらかった。
- 3 話し合う内容が難しかったと思う。話し合うこと①では、②の内容も出てきていた。ゴールがどこなのか分りにくかったため、この評価にさせていただきました。
- 4 柱 1 の視点がさまよっていて、内容を考えると柱 2 に入るのではと思いついた戸惑いを感じた。小学校 2 年生が先生が出張でいない時のことまで考えることができるのか、決定事項が児童の手に余るものだったと思う。司会グループ（副）が良かったです。
- 5 学級全員が意欲的に参加できていたと思います。告知の段階で、いかに事前把握しておくことが大切か改めて実感できました。
- 6 小学校 2 年生に複数のトピックをその場で考えさせることは難しいと思う。事前に学級会ノートを回収できたなら、児童の意見に沿って指導案や柱を作成すべきだったと感じる。

3 研究の結果とまとめ

表9は、授業後に実施したアンケートで「本科目の授業で身につけたものは何か」について自由記述させたものである。

表9 本科目の授業で身につけたもの

- 学級会の仕方やその前の準備がとても大切であることがわかった。
- 特別活動の大切さを身につけた。学級会だけでなく知らず知らずに今行なっていることは学級生活の土台を作っていることを知った。
- 生徒には、これからの人生で出会う人と良い関係を築いてほしいため、現場で実践する必要がある。
- 学級会の授業のつくり方（事前から事後の活動まで）話し合い活動の進め方。
- 特別活動で重要視しなければいけないこと。子供に身につけたい能力と姿。望ましい人間関係をどのように構築させていくか。
- 学級会とは何を話し合うべきなのか、そのために教師がすべき工夫や児童の望ましい姿。
- 生徒が主体的に問題を解決する場合や、居場所のあるクラス作りをするための手立てや工夫。
- 特活を行う視点が具体化されて、どのような方法で行えばいいのかが身についた。計画する際に教師として何をすべきかが少しずつわかってきた。
- 学級会の中での先生の立ち位置。特別活動では何を育てていきたいのかを分析することで、教師の介入の仕方、司会の進め方、教室環境づくり、議題の提案の仕方など、様々な視点で話し合い活動のあり方を学ぶことができた。
- 自分は、学級会をどう組織していったらいいのかわかりませんでした。が、基礎を学べた。子供の目線に立って話し合い活動を設定することの難しさを感じた。
- 今まで学活でどのようなことをすれば良いか明確にできていなかったが、この授業を通して学活の行い方や構想の一つの手順について理解を深めることができた。早く現場に出たいという気持ちが強まった。
- 学級会はどのようなものか、全くわからなかったが、この授業で学級会の議題、考え方、進め方についての知識を身につけた。

表9に書かれた自由記述の内容を見ると、院生が学級会の意義や、具体的な指導の方法を身につ

けたことが分かる。平成29年3月に公示された学習指導要領には、「学級活動などの自発的、自治的な活動を中心とした学級経営の充実」が示されている。学級活動などの自発的、自治的な活動とは、学級会や係活動、学級集会活動のことである。

学級経営がうまく機能せず、いわゆる「学級の荒れ」を経験する初任者の存在を耳にする。これは、初任者が担任する学級の児童生徒に任せたり認めたりほめたりする事が不十分で、逆に、禁止事項のみを示すなど管理しようとしすぎるからだと考える。

（重松，1971）は、特別活動を「所属する社会に対する鋭い批判の眼を育成し、集団への正しい適応を実現させるものである。」と定義付けている

このことはつまり、学級や学校という社会に対して、今の生活のままでいいのかという批判的な思考を働かせて、集団や自己のより良い生活を作り出して行こうとする主体的な人間の育成を目指すのが特別活動であると言っているのである。

本授業を通して、学級会の授業のつくり方を身につけた院生は、この事を、現場で児童生徒の前に立った時に確実に実践していったと考える。

本研究では、教職大学院の学部卒院生に学級会の授業をみる、授業をつくる、授業を実際に実施する活動を取り入れた本科目の授業を行う事で学級会に対する実践的な指導力の育成を目指した。

本授業後「授業で効果的だったもの」として、2回の授業参観と授業分析と答えた院生が34%、模擬授業32%、マネジメントシートによる授業構想16%と答えている。

このことから、学級会の授業をみる、授業をつくる、授業を実施するという活動を取り入れた本科目の授業は、一定の効果を見ることができたと考える。しかし、本学院生が現場においてどのような学級会の授業を行っているのかを追跡調査していくことが今後の課題である。

主な引用・参考文献

- 中央教育審議会答申 2012 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について
- 後藤和歌子 2016 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報 第6号
- 日本特別活動学会 2014 特別活動の改善に関する調査報告書
- 重松鷹泰 1971 初等教育原理 120